

絵本の読み聞かせ教室

- 1 趣 旨：読書啓発活動の手法の一つである「アニメーション」(※1)を提唱する絵本専門士(※2)廣澤貴理子氏による絵本の読み聞かせ講座を開催し、絵本の読み聞かせを行っている方々のスキルアップやネットワークを構築することで、地域や家庭における子供たちへの絵本の読み聞かせ活動の推進を図る。

※1 アニメーション：スペインのモンセラット・サルト氏が考案した、グループ参加型の読書指導メソッド

※2 絵本専門士：絵本に関する高度な知識、技能及び感性を備えた絵本の専門家

2 日 時：令和4年12月18日(日) 13:00～16:00

3 場 所：国立淡路青少年交流の家 音楽室

4 対 象：絵本の読み聞かせ活動を行っている方、または興味のある方

5 参加者：22名(女性21名・男性1名)

6 講 師：廣澤貴理子氏(絵本専門士・徳島市立図書館副館長)

7 プログラムの内容

13:00 アニメーションの解説

講師の廣澤貴理子先生に、アニメーションについての解説を行っていただいた。参加者の数名はアニメーションという言葉を知っていたが、半数以上は知らない方で、廣澤先生の解説を集中して聞いていた。



13:50 ワークショップ

この時間では、参加者がアニメーションを実際に体感、体験する時間となった。まずはグループ内で簡単な自己紹介を行い、その後は班の名前を班の番号に紐付けて考えた。何気ない内容にも思われるが、これにより会話が生まれグループ内で活発に交流が行われ、次の活動への助走となっていた。その後、「そしたらそしたら」という絵本を用いて全体でのワークショップを行った。このワークショップでは、各班に3枚の擬音語が書かれている紙を配布し、擬音語を付箋で隠してある絵本を講師が読みながら、各班で正解だと言う言葉を答えていくクイズ形式で行った。参加者は楽しくアニメーションを体験していた。



14：40～ アニマシオンの指導方法

絵本「仔牛の春」を用い、18からなる構成ごとに担当を割り振り、読み合うアニマシオンを行った。一体感も感じることができるとともに、担当する人ごとに個性が出ており、1人ひとりにスポットがあたり主人公になることができる。アニマシオンでは読み手が一方的に聞き手に絵本を読むのではなく、巻き込む、参加してもらうことを大切にしていることを体験する場となった。



9 参加者の声

- ・想像以上にアニマシオンの魅力を知る事ができ、楽しめました。本を通じて人生を楽しむ、人との交流など大切なことを学びました。
- ・今までは一方的な子供達への読み語りでしたが、参加型の楽しさや有効性を理解できました。楽しかったです。
- ・アニマシオン第二回をしていただきたいです。

※アンケートで「事業全体の満足度」を尋ねたところ、全ての参加者が「良かった」（最上位評価）に回答した。

10 所感

本事業は2点の目的で事業を実施した。1点目はアニマシオンを知ってもらうこと、2点目は普段絵本の読み聞かせ活動を行っている方の交流の場づくりである。以下の参加者の様子から、事業を通してこれらの目的は達成されたと感じる。

アニマシオンを知ってもらうという点では、講師の廣澤先生からの指導により、タイトルを隠した絵本を読み、そのタイトルを当てたり、絵本の表紙、背表紙、裏表紙から絵本の内容を想像したりと、参加者の方々は楽しく絵本と向き合うなど、アニマシオンを体感、体験し、笑顔になっていたのが印象的であった。

交流の場づくりという点では、顔見知りの方や同じ地域、職種の方が参加しており、講座が開始される前から各班で話が弾んでいた。またアニマシオンを用いたワークショップをすることで、班内で活発に交流が行われており、休憩時間や振り返りの時間も積極的に交流を図っている姿が見られた。

